

傷

karinomaki

精神病

私は20才で発病した精神病患者です。この前、精神科医の厳しい先生と、いさかいがありました。

私の病気は、妄想があります。この人は悪だと勝手に決めつけて、その人を徹底的に言葉で攻撃してしまいます。私は妄想型統合失調症なのです。

私のその部分を先生は激しく怒りました。私は涙が止まらなくなり、診察をうけたあと、体中に激痛が走り、マンションから飛び降りることまで考えました。

そんな私を、今の彼が助けてくれました。

彼には、激しい恋愛感情よりも、大きな、包むような、癒しと安らぎを感じています。彼も、精神病です。

先生

でも、私が真剣に愛しているのは、先生です。先生に完全に嫌われたと思った私は、主治医を院長先生に代えてもらおうとしました。院長先生に、手紙まで書きました。

実は、この手紙は、病気に書かされたものでした。私は、先生に何を言われたか、どんな診察を受けたのか克明に書き、もう怖くて先生の診察室には入れないと院長先生に頼みました。

先生、そんな私なのに、先生は、私が働いている病院の食堂に、毎日食べに来てくれた。

先生を憎いと思った。本気で憎んだ。でも、病院に行く度に、私は先生を探していました。これは、どういう感情なのでしょう。

おそらく、私の傷は、優しさでは治らないのです。先生の厳しさと冷たさ、そして温かさで治っていくのです。

それが、本当の治療であるとわかった私はもう一度先生に頼みました。

先生、やっぱり先生にみて欲しい。

先生は、私の軽はずみさをいさめましたが、目は優しく笑っていました。

傷

傷というものは、時に切り開いて、膿を出さねばならない。それが先生の治療でした。私の傷は一生ものかもしれない。また、先生の言葉や態度に傷つくかもしれない。でも、全てが先生の厳しさの中の優しさであるとわかった今、どんなにつらくても先生の治療を一生受けようと思う。